

令和3年度文部科学省

「幼稚園の人材確保支援事業」

調査研究事業報告書

公益社団法人北海道私立幼稚園協会

「幼稚園の人材確保支援事業」の実施にあたり

一昨年、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を奮い、その影響により日本の幼児教育・保育施設にも大きな変化が起こってきた。

発生年度はすべてが手探りの中、まずその対応を行うことに追われた。そして現在、感染防止対策の徹底しながらも少しずつ、コロナ禍前の日常に近い教育・保育が提供できるよう模索しながら、日々の保育を行っている。

しかしながら、現在も子どもたち、先生ともにマスクを着用し、一定の距離を保ちながら、また、様々な行事も制限するなど、まだまだコロナ禍前の環境や運営を完全には取り戻せてはいない。

その間、教職員は日々の保育のあり方を考え、新たな方法を実践していくことに加えて、感染防止対策作業を行い、また、自身が感染する可能性と隣合わせである中であっても、子ども達の健やかな成長を支え、生きる力の基礎を培う重要な時期に質の高い幼児教育を提供する責務と熱意で園を支えている。

改善傾向にあった現場の労働環境が、コロナ禍において感染症対策の作業などにより足踏みをし、また、エッセンシャルワーカーとしての労働内容や責務などの負担感から敬遠されることも懸念されるなど、国も様々な改善策を打ち出してくれているものの、幼児教育・保育業界は引き続き厳しい人材難、現場環境となっている。これを示すように、北海道においては令和3年度の養成校進学者が大きく減少し、幼児教育・保育現場における人材不足・人手不足は、急激に厳しくなっている現状もある。

ここ2年の感染症対策などによって人と人との繋がりが希薄となり、感染症対策が子どもたちの心身の発達にも影響が出ているのではないかとの研究や現場の声もある中、子どもたちへの質の高い幼児教育・保育、また、家庭への子育て支援、それと同時に人材確保と現場が抱える業務効率化などの課題解決がより一層求められている。

本年度の本事業も引き続き先行きの見えない感染症の影響により、当初計画から大きな変更や中止を余儀なくされているが、この環境下で普及拡大しているICTの導入・支援をはじめ、より効果的な施策の実施を目的として、結果をここに報告し、人材確保・定着促進への課題解決に向けて、今後の事業実施に役立つものである。

「幼稚園の人材確保支援事業」実施結果報告

[目次]

はじめに 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施にあたり

1. 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施概要

- (1) 調査研究テーマ
- (2) 調査研究課題
- (3) 事業計画の概要
- (4) 具体的な調査研究計画

2. 「幼稚園の人材確保支援事業」の事業実施結果及び分析結果

- (1) 「社会保険労務士等の活用による労務環境・就業規則等の改善」
- (2) 「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」
- (3) 「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

まとめ

1. 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施概要（事業計画）

(1) 調査研究テーマ

- ICT 支援員等の活用による園務 ICT 化を通じた業務改善
- 幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施

(2) 調査研究課題

幼稚園・こども園における人材確保については、労働人口の減少、質の高いきめ細かな幼児教育・保育の推進、また、新制度における必要な教員数の増加や幼稚園教諭養成校への進学者減少など、様々な要因から年々厳しさを増す状況となっている。

採用後の定着促進については処遇改善や働き方改革への取り組みにより改善が図られているが、人材確保、幼児教育・保育の質の向上の観点からも、より一層進める必要がある。また、近年、大きく改善され続けていることが、高等学校の教員・生徒、養成校の学生、広く社会に正しく十分に伝わっていない状況から他業種と比較し、依然として高い離職率と短い平均勤続年数となっている。

これらのことから、園務 ICT を通じた業務改善による「離職防止・定着促進（働き方改革）」、幼稚園教諭等の魅力発信のための PR・広報の実施による「養成の充実（幼稚園への就職希望者を増やす）」の 2 つの課題について、効果的な施策の実施及び好事例の把握と波及を目的に調査研究・分析を行う。

結果については、各媒体や研修会等で普及・啓発を図り、現場における課題解決に向けて適切な取り組みができるよう、また、その取り組みが幼児教育・保育の質の向上に寄与できる内容とすることを目的とする。

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

実施する事業について、下記の事項等について調査研究を実施する。

- ① 一昨年度、団体に配置した ICT 支援員を活用し、「学校教育情報化推進法」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」、「GIGA スクールネットワーク構想」など、国が推進する教育の ICT 化の様々な施策や Society5.0 への取り組みを踏まえ、ICT 化による教員の業務負担軽減を図ることを目的に、道内 11 地域で ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- ② ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 10 園程度）をモデル園とし、Google Workspace for education 等、業務改善を図ることが可能なシステムの導入・活用の支援を行い、課題の洗い出し、システムの選択、導入・活用・効果などについて分析し、その結果について周知・共有を行う。（指導計画・要録、保育記録等の電子化と情報共有、また、共同編集による作業効率化、教職員間・保護者への連絡、テレワーク等の柔軟な働き方の実現）
- ③ モデル園についてはソフトウェアの利用方法、業務効率化につながる運用方法のコンサルティングの他、ハードウェアを含めて実施前後の状況を調査する。
- ④ ICT 活用を進めるにあたり、事業自体をオンライン形式にて実施できるよう、内容の精査、検証、組み立て等を検討する。
- ⑤ 調査及び効果測定に基づき、現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックを分析するとともに、モデル園における ICT の導入・活用調査・ICT 化による効果などについて PDCA を行い、その他の事例と併せて、ICT 化による業務改善等の効果を高める方策を研究する。

- ⑥ 実施にあたっては、北海道教育庁及び北海道私立学校所管課と連携し、取り組みを推進する。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

実施する事業について下記の事項等について調査研究を実施する。

- ① 養成校に訪問し、幼稚園教諭の魅力発信を PR し、その内容と効果、また、就職先意向等について定性的評価を行う。
- ② 継続的に本事業を実施し、本事業が学生の就職意識や園における新規採用について、長期的にどのような効果があったかについて分析を行う。
- ③ 幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレット・ポスターの作成、Web サイトの拡充を行い、養成校の学生及び高校生等に向けて PR を図る。併せて、ポスターについては公共施設や民間施設（駅・大規模小売店等）などにも掲示を依頼し、保護者や潜在免許保持者への情報提供を行う。
- ④ 幼稚園教諭・幼稚園の仕事・労働環境・待遇等について、高等学校の進路指導担当教員及び担任・保護者に向けて、正しい現状を伝え、養成校への進学者増と幼稚園への就職者増を図る。
- ⑤ より多くの高校生に養成校へ進学してもらえるよう、高校生とその保護者・高等学校の進路指導担当者に向けて、ポスター・Web サイトなど多くのメディアを通じて、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力等を発信し、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数の増加へ繋げる。
- ⑥ 高等学校モデル校において、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、職業理解と幼稚園教諭の魅力発信を行う。
- ⑦ 就職希望者にとって、就職への壁となっている課題や離職理由等を調査し、就職希望者の増加と離職防止に向けて改善すべき点の洗い出しを行う。
- ⑧ 調査及び効果測定に基づき、随時、実施する内容の改善を行い、新規採用における効果を高める方策を研究する。
 - ① 実施にあたっては、幼稚園教諭養成校、高等学校、北海道教育庁及び北海道私立学校所管課と連携し、効果的な取り組みを推進する。

(3) 事業計画の概要

(現状と事業実施の経緯)

人材確保については、労働人口の減少ときめ細かな幼児教育・保育の重要性への期待とニーズ、併せて必要な教員数の増加、多様な働き方への対応などにより、社会的な人材不足が加速する中、国の施策である処遇改善や労働環境の改善を中心として働き方改革などについても、少しずつ取り組みが進んでいる。過去に実施してきた取り組みにおいても、改善に取り組む園が増え、また、その効果も少しずつ見え始め、平均勤続年数については5年前の約5年強から7年を超えるようになってきた。

しかしながら、早期離職率は減少傾向にあるものの、その反面、きめ細かな子どもたちへの対応と質の高い教育・保育へのニーズ、そして、さらに厳しさを増す人材確保などにより、教員への業務負担は増加し続けており、一般労働者（女性・長時間）の平均勤続年

数9.7年※1や他業種の離職率と比較しても、教員の労働環境の改善、離職防止・定着促進はまだ十分とは言えない状況である。

従来からの課題であった、労働環境改善やワークライフバランスへの取り組みに対しては、大きく改善されてきているが、もう一つの課題である増え続ける教員の業務負担に対して有効と考えられるICTの効果的な活用手法や活用効果への理解が十分ではないことがある。

新型コロナウイルス感染症の影響により、園務ICT化の重要性や必要性の認識は非常に高まっているが、多くの園ではICTの活用を進めることができる人材が園にいないこと、そのためリテラシーの低さや導入に対する壁があることなどから、ICTの活用による業務改善がなかなか進まない現状がある。

また、新規採用においてもますます厳しい状況となっており、少しずつであるが改善が進んでいる労働環境・雇用条件について十分に伝わっておらず、幼児教育・保育の仕事は厳しいなどのイメージが定着し続けている面もあり、養成校卒業者が幼稚園・こども園以外の施設や民間企業など、より良い労働環境・条件を求めて他業種に就職する割合が年々増加し、さらには養成校への進学率も急激に厳しい状況となっている。

一昨年10月より実施された「幼児教育・保育の無償化」により教育・保育の質の向上が求められる中、意欲のある就職者を増やし、豊かな経験と知見を持った教員として子どもたちに質の高い教育・保育を行うにはより一層の人材確保・離職防止・定着促進対策が急務となっている。

※1 出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「長期労働統計」より」

（事業の目的及び目標設定）

現状の課題背景により、幼稚園・こども園の労働環境・ワークライフバランス等の改善、働き方改革の実現に向けて、園務ICT化を通じた業務改善について研修やコンサルティングを行い、また、幼稚園教諭の魅力や改善・充実してきている労働環境・待遇等を適切に発信し、幼稚園への就職希望者を増やすことを目的に事業実施を図るものである。

また、北海道教育庁幼児教育推進センター及び私立学校所管の北海道総務部法人局学事課と連携し、行政も事業実施に積極的に参与することにより、団体のみならず行政の視点からもこの取り組みの重要性を伝え、方策の提案、実施などを行う。併せて、幼稚園教諭養成校・高等学校とも密接に連携を図り、効果的な実施に努める。

これらの事業を実施し、各取り組みについてアンケートやヒアリングなどを通じて調査分析・効果測定を行い、園務ICT化を通じた業務改善では導入前と導入後で作業工程数や時間外勤務の削減時間数にどのような変化があったか、さらにコミュニケーションや情報共有などに対し、定量的・定性的評価について比較検証を行う。また、幼稚園教諭の魅力発信のためのPR・広報では、実施前と実施後の意識調査にて就職・進学意向の変化を検証し、併せてPR用Webサイトにてアクセス解析を行い、その数値向上を目標とするものである。

（具体的な事業実施項目）

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

- ① 一昨年度、団体内に配置した ICT 支援員を効果的に活用し、道内 II 地域を目標値として、設置者・園長・事務長等の管理職のみならず、現場の教員までを対象として ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- ② 「学校教育情報化推進法」、「GIGA スクールネットワーク構想」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」など、国（文部科学省）が推進する教育の ICT 化に関する様々な施策や Society5.0 に向けた国の取り組みを踏まえながら、先端技術を低コストで導入し、ICT 環境の整備につなげられるよう具体的な提案とコンサルティングを行い、導入・活用の促進を図る。
- ③ 道内はもとより全国的な具体的実践例を、学校法人のみならず同様の課題に取り組み民間企業等からも学ぶ機会を設け、各園の現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックの把握、具体的な事例と活用に関して情報提供を行い、ICT 化による教員の業務負担軽減を図る内容とする。
- ④ 資料や講演だけではなく、実際に園で活用可能な機器等を用いたデモンストレーションを行い、体験を通じて園で導入した際の業務改善効果を体験・イメージできるような内容を盛り込み、ICT に対する疑問や壁を取り除き、効果的な活用につなげる。
- ⑤ ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 10 園程度を目標値）をモデル園とし、現在、多くの公立・私立の小・中・高等学校や教育委員会等で導入・活用が行われている GoogleWorkspace for education 等、業務改善を図ることが可能なシステムの導入・活用の支援を行い、課題の洗い出し。また、その状況について事例としてまとめ、ICT の導入・活用に関するアンケート調査とともに全園で共有を図り、事業実施の効果を高める。
- ⑥ モデル園についてはソフトウェアの利用方法、業務効率化につながる運用方法のコンサルティングの他、ハードウェアを含めて実施前後の状況を調査する。
- ⑦ ICT 活用を進めるにあたり、事業自体をオンライン形式にて実施できるよう、内容の精査、検証、組み立て等を検討する。
- ⑧ 行政から公立学校における ICT による業務改善、校務の効率化の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園における効果的な実践につなげると共に、公立学校とも情報共有を行い、さらに効果的な取り組みとする。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

- ① 北海道内の幼稚園教諭養成校（32 校中 10 校を予定）に当団体担当者、現役幼稚園教諭・保育教諭が訪問し、幼稚園教諭及び保育教諭として就職を希望・検討している学生に対し、その魅力を PR するとともに、実態・魅力・キャリアパスイメージ等について情報提供、先輩教員の体験談・質疑・ディスカッションなどを実施する。
- ② 幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレットやポスターの作成、Web サイトの拡充を行い、養成校の学生に向けて PR を図る。
- ③ 行政からも北海道における幼児教育の重要性及び幼児教育推進センターを中心とした取り組みなどについて発信し、さらに効果的な取り組みを図る。

- ④ 北海道内の幼稚園教諭養成校と連携協力し、新規採用に関して定期的な情報交換を行い、事業が幼稚園教諭・保育教諭の採用促進に資する内容となるよう推進する。
- ⑤ 高等学校モデル校において、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、職業理解と幼稚園教諭の魅力発信を行う。
- ⑥ 幼稚園教諭を目指す高校生には確実に養成校へ、選択肢として検討中の場合には養成校への進学希望を高め、幼稚園教諭という選択肢を考えていない高校生には少しでも興味関心を抱いてもらうことを目的に、より多くの高校生に養成校へ進学してもらえよう、高校生とその保護者・高等学校の進路指導担当者に向けて、ポスター・Web サイトなど多くのメディアを通じて、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力等を発信し、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数の増加へ繋げる。併せて、ポスターについては公共施設や民間施設（駅・大規模小売店等）などにも掲示を依頼し、保護者や潜在免許保持者への情報提供を行う。
- ⑦ 幼稚園教諭・幼稚園の仕事・労務環境・待遇等について、高等学校の進路指導担当教員及び担任・保護者に向けて、正しい現状を伝え、養成校への進学者増と幼稚園への就職者増を図る。
- ⑧ 就職希望者にとって、就職への壁となっている課題や離職理由等を調査し、就職希望者の増加と離職防止に向けて改善すべき点の洗い出しを行う。
- ⑨ 内容改善と効果的な事業実施を進めるため、アンケート調査を実施し、過去の同様の事業にて実施したアンケート調査と比較しながら、その調査を継続して行い、施設形態ごとの就職率、早期離職率などを検証・研究し、事業実施の効果を高める。

（調査研究のポイント）

各調査研究テーマに伴う事業ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたり定量的評価はもとより、自由記述やヒアリング等から対象者の考えや意識も重視し、これらの定性的評価をスコアリングやテキストマイニング等により可能な限り可視化し、調査研究を効果的に事業に反映できる仕組みを構築する。

(4) 具体的な調査研究計画

① 目的

調査分析及び効果測定の結果に基づき、実施施策の内容について検証・改善を行い、目的の達成のための効果を高める手法をする。

② 内容・計画・実施・分析

「ICT 支援員等の活用による園務 ICT 化を通じた業務改善」

- ア. 一昨年度、団体内に配置した ICT 支援員を効果的に活用し、道内 11 地域を目標値として、設置者・園長・事務長等の管理職のみならず、現場の教員までを対象として ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- イ. 幼稚園は未だ ICT リテラシーの低さが課題となっており、園務 ICT 化による業務改善が進んでいるとは言えない状況が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響により、ICT 活用の必要性や重要性の認識は高まったものの、多くの園では導入・活用に対する手法や自園の状況に応じたシステムの選択、また、自園での管理者・利用者への教育などに課題を抱えたままとなっている。このため「学校教育情報化推進法」、「GIGA スクールネットワーク構想」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」など、国（文部科学省）が推進する教育の ICT 化に関する様々な施策を踏まえながら、先端技術を低コストで導入し、ICT 環境の整備につなげられるよう具体的な提案とコンサルティングを行い、導入・活用の促進を図る。
- ウ. 道内はもとより全国的な具体的実践例を、学校法人のみならず同様の課題に取り組み民間企業等からも学ぶ機会を設け、各園の現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックの把握、具体的な事例と活用に関して情報提供を行い、ICT 化による教員の業務負担軽減を図る内容とする。
- エ. 資料や講演だけではなく、実際に園で活用可能な機器等を用いたデモンストレーションを行い、体験を通じて園で導入した際の業務改善効果を体験・イメージできるような内容を盛り込み、ICT に対する疑問や壁を取り除き、効果的な活用につなげる。
- オ. ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 10 園程度を目標値）をモデル園とし、現在、GIGA スクールネットワーク構想のもと、多くの幼・小・中・高等学校や教育委員会で導入が進んでいる Google Workspace for education を中心として、指導計画・要録・保育記録等の電子化と情報共有、また、共同編集による作業効率化、教職員間・保護者への連絡、テレワーク等の柔軟な働きからの実現等におけた業務改善を図ることが可能なシステムの導入・活用の支援を行う。支援については導入検討から導入、活用支援、課題抽出、解決支援、効果分析の PDCA を行い、人数や作業量に合わせて 4~6 ヶ月程度を 1 サイクルとして行う。また、その状況について事例としてまとめ、ICT の導入・活用に関するアンケート調査とともに全園で共有を図り、事業実施の効果を高める。
- カ. モデル園についてはソフトウェアの利用方法、業務効率化につながる運用方法のコンサルティングの他、ハードウェアを含めて実施前後の状況を調査する。
- キ. ICT 活用を進めるにあたり、事業自体をオンライン形式にて実施できるよう、内容の精査、検証、組み立て等を検討する。
- ク. 行政から公立学校における ICT による業務改善、校務の効率化の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園における効果的な実践につなげると共に、公立学校とも情報共有を行い、さらに効果的な取り組みとすることを図る。

- ケ. 重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたっては定量的評価や自由記述やヒアリングなどによる対象者の意見・意識も重視し、定性的評価をスコアリングやテキストマイニングなどにより可能な限り可視化し、調査研究を効果的に事業に反映できるよう仕組みを構築する。
- コ. 周知・啓発等にあたっては北海道、また、当協会と道内養成校で組織する北海道幼児教育連絡協議会と密接に連携し、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書・Web サイト等で共有・発信することを図る。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

- ア. 北海道内の幼稚園教諭養成校（32 校中 10 校を予定）に当団体担当者、現役幼稚園教諭・保育教諭が訪問し、幼稚園教諭及び保育教諭として就職を希望・検討している学生に対し、その魅力を PR するとともに、実態・魅力・キャリアパスイメージ等について情報提供、先輩教員の体験談・質疑・ディスカッションなどを実施する。
- イ. 養成校の学生には労働環境・労働条件とともに、幼児教育の重要性や子どもとの触れ合いなど職業の社会的な意義と魅力について現職教員の声を交えて伝える。また、幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレット・ポスターの作成・配布、Web サイトの拡充を行い PR を図る。
- ウ. 高等学校においては進路指導担当教員、また、生徒にもいまだに労働環境・労働条件が悪いという職業としてのネガティブイメージがあり、進路指導担当教員が養成校への進学を勧めなかったり、そもそも生徒が進路として考えていない状況も多くある。このため、リーフレットやポスターを作成・配布し、高校生が情報収集ツールとしてスマートフォンを中心としていることから、Web サイト・SNS 等を活用し、年々改善されている正しい姿を伝え、進路として検討できるような内容とする。Web サイトについては適切なアクセス解析ソリューションを通して、その効果を分析する。
- エ. 幼稚園教諭を目指す高校生には確実に養成校へ、選択肢として検討中の場合には養成校への進学希望を高め、幼稚園教諭という選択肢を考えていない高校生には少しでも興味関心を抱いてもらうことを目的に、より多くの高校生に養成校へ進学してもらえるよう、高校生とその保護者・高等学校の進路指導担当者に向けて、ポスター・Web サイトなど多くのメディアを通じて、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力等を発信し、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数の増加へ繋げる。併せて、ポスターについては公共施設や民間施設（駅・大規模小売店等）などにも掲示を依頼し、保護者や潜在免許保持者への情報提供を行う。
- オ. 行政とも密接な連携を図り、北海道における幼児教育の重要性及び幼児教育推進センターを中心とした取り組みなどについて発信し、さらに効果的な取り組みとすることを図る。
- カ. 北海道内の幼稚園教諭養成校と連携協力して組織している北海道幼児教育連絡協議会を活用し、進学・新規採用等に関する定期的な情報交換を行い、事業が幼稚園教諭・保育教諭の採用促進に資する内容となるよう推進する。

- キ. 高等学校モデル校を設定し、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、その結果を職業理解と幼稚園教諭の魅力発信として周知・PRを行う。
- ク. 就職希望者にとって、就職への壁となっている課題や離職理由等を調査し、就職希望者の増加と離職防止に向けて改善すべき点の洗い出しを行う。
- ケ. 内容改善と効果的な事業実施を進めるため、アンケート調査を実施し、過去の同様の事業にて実施したアンケート調査と比較しながら、その調査を継続して行い、施設形態ごとの就職率、早期離職率などを検証・研究し、事業実施の効果を高める。
- コ. 重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたっては定量的評価はもとより、自由記述やヒアリングなどにより対象者が持つ意見・意識も重視し、これらの定性的評価をスコアリングやテキストマイニングなどにより可能な限り可視化し、調査研究を効果的に事業に反映できるよう仕組みを構築する。
- サ. 周知・啓発等にあたっては北海道、また、当協会と道内養成校で組織する北海道幼児教育連絡協議会と密接に連携し、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書・Web サイト等で共有・発信することを図る。

③ 調査研究体制の特色

調査研究実行委員会は当協会の代表者をはじめ、行政から北海道の私立幼稚園所管課及び北海道教育庁幼児教育推進センターの代表者、また、幼稚園教諭・保育教諭養成校の代表者をもって組織する。事務及び会計処理についても「公益社団法人北海道私立幼稚園協会」を主体に協会の各事業委員会が積極的に参与し、適切に処理される運営体制が整っている。

特に北海道の私立学校所管部署である学事課及び北海道教育庁の幼児教育推進センターと連携協力し、行政と一体となって調査研究テーマとなる喫緊の課題に対する調査研究にあたる。

また、北海道内の幼稚園教諭・保育教諭養成校（大学・短期大学・専門学校）32校と当協会が組織する「北海道幼児教育連絡協議会」とも密接に連携協力を図りながら、養成課程の視点からも離職防止・定着促進、新卒採用の促進に向けて調査研究を実施する運営体制が整っている。

2. 「幼稚園の人材確保支援事業」の事業実施結果及び分析結果

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

(1) 目的

本事業の目的は ICT 支援員等と連携し、ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施し、法人・園における業務効率化等への理解・活用促進を図るとともに、園務における課題・解決方法、導入・活用時の事例・効果等を研究し、その効果を高める手法を研究することを目的としたものである。

(2) 取組内容について

① ICT 支援員の派遣について

実施内容：「ICT 支援員の派遣による業務効率化等への理解・活用促進」

ICT 支援員の派遣依頼があった園をモデル園とし、園における ICT 導入・活用について課題や要望を調査し、働き方改革や業務効率化等に向けたソリューションの導入・活用支援を行い、継続的にその効果について検証を行う。また、その結果について広く普及を行い、人材確保・定着促進に向けて幼児教育・保育業界における ICT 利活用の促進を進める。

ア. 札幌あかしゃ幼稚園

日時：令和3年6月8日（火）14：00～16：30

会場：札幌あかしゃ幼稚園（札幌市）

実績：園長・事務長、実務担当者3名（計5名）

講師：ICT 支援員 馬場克典

イ. 認定こども園元江別わかば幼稚園

日時：令和3年6月15日（火）10：00～12：30

会場：認定こども園元江別わかば幼稚園（江別市）

実績：園長・事務長、実務担当者、教職員7名（計10名）

講師：ICT 支援員 馬場克典

ウ. 帯広幼稚園

日時：令和3年6月28日（火）14：30～16：30

会場：帯広幼稚園（帯広市）

実績：園長・事務長、実務担当者、教職員6名（計9名）

講師：ICT 支援員 馬場克典

エ. リタ幼稚園

日時：令和3年8月18日（火）14：30～16：30

会場：リタ幼稚園（余市町）

実績：園長・実務担当者、教職員7名（計9名）

講師：ICT 支援員 馬場克典

オ. 札幌ゆたか幼稚園

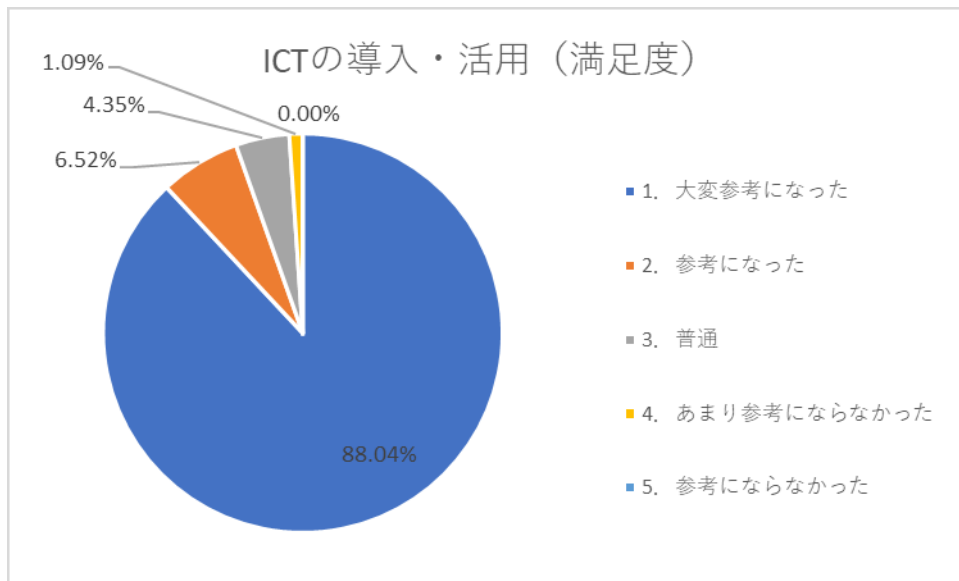
日時：令和3年9月8日（水）11：00～12：30

会場：札幌ゆたか幼稚園（札幌市）

実績：園長、副園長、事務長、実務担当者（計4名）

講師：ICT 支援員 馬場克典

- カ. 函館大谷短期大学附属認定こども園
日時：令和3年9月14日（火）16：00～18：00
会場：函館大谷短期大学附属認定こども園（函館市）
実績：園長2名・事務長、実務担当者、教職員11名（計15名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- キ. 認定こども園千歳青葉幼稚園
日時：令和3年10月12日（火）13：15～16：15
会場：認定こども園千歳青葉幼稚園（千歳市）
実績：園長、副園長、事務長、実務担当者、教職員5名（計9名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- ク. 旭川市私立幼稚園連合会
日時：令和3年11月8日（月）17：00～19：00
会場：めいほう幼稚園（旭川市）
実績：旭川市内の研修担当者（園長8名、副園長2名、教職員2名）（計12名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- ケ. 旭川ふたば幼稚園
日時：令和3年11月9日（火）10：00～13：00
会場：旭川ふたば幼稚園（旭川市）
実績：園長、実務担当者（計2名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- コ. ユリアナ幼稚園
日時：令和3年11月9日（火）16：00～18：00
会場：ユリアナ幼稚園（旭川市）
目標：園長・事務長、実務担当者、教職員3名（計6名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- サ. 認定こども園北見幼稚園
日時：令和3年11月22日（月）13：00～16：00
会場：認定こども園北見幼稚園（北見市）
実績：園長・事務長（計2名）
講師：ICT支援員 馬場克典
- シ. 釧路市私立幼稚園連合会
日時：令和4年2月3日（木）15：30～17：00
会場：オンライン
実績：釧路市内の幼稚園等の園長・実務担当者（計9名）
講師：ICT支援員 馬場克典



【意見・感想】

- 課題の解決に向けて、必要なことやどのように進めると良いかよく理解できた。
- 自分たちの課題が具体的にどのようなことかが明確になった。
- ICT自体がよくわからずどうやって課題を解決できるかわからなかったが、ICT導入のきっかけとなる研修だった。
- 現在の社会環境やコロナ禍中、コロナ禍以後の環境がどのように変わっていき、それに対してなぜ、ICTが必要なのがわかった。
- 属人化している業務が、いかに危険であり、組織の危機管理として改善が必要か理解できた。
- すぐに出来ることもあるが、継続的な研修やサポートを受け、自分たちが理想とする環境にしていきたい。
- 様々なシステムやソリューションがある中で、具体的にどのようなシステムが良く、どのくらいの費用がかかるのか。また、協会として推薦するものなどを示していただけると良いと思う。
- 業者からの提案ではなく、幼児教育施設を理解している支援員が第三者の目から情報提供してくれるので、とても参考になる。
- ある程度のICT化を進めてきたが、これからより一層進めていくためにはどのようにすべきかという、次のステップも示していただけるとありがたい。
- 実際に導入・活用を進める際、細かなところでつまづくことが多い。そういった場合にもサポートをしていただけるとありがたい。
- 今後、園や法人としてICT化を進めていくにあたり、人材の紹介などもあれば良いと思う。

【効果及び検証と普及・啓発について】

- ・ ICT支援員等を活用し道内11地域を目標値として、ICTへの理解・導入・活用等に関する研修を掲げていたが、新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言、感染拡大防止への対応等）により2地域（対面方式1・オンライン方式1）のみの実施となった。

- ・積極的に ICT を活用し業務改善への取り組みを図るモデル園へのアドバイス・コンサルティングについては 10 園で実施でき、通常の業務改善の他、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅勤務や情報共有・共同作業など ICT 活用の必要性・重要性の認識が急速に高まっている。また、一部の地域ではモデル園から他園への波及が進みはじめ、併せて、オンライン研修を積極的に実施しはじめるなどの効果が出ており、今後、より一層の広がりや取り組みが期待できる結果となった。
- ・一部の地域ではモデル園へのコンサルティングやオンライン研修をきっかけに積極的に活用を模索しはじめており、地域全体で情報共有や事例発表、研修を行い、普及と啓発に努める動きがあり、今後、これらの好事例を道内の幼児教育・保育施設全体で共有していきたい。

【取り組みを行う場合の留意点】

- ・新型コロナウイルス感染症が幼児教育・保育施設に多大な影響を及ぼしており、従来の対面研修やコンサルティングがなかなか実施できない状況が今後も発生すると思われる。このため、対面によらずにオンラインで本事業が実施できる方策の検討が必要である。しかし、この場合、そもそも ICT リテラシーが低く、オンライン環境が整っておらず利用方法もよくわからないという園にどのような進め方をしていくことが良いのかが課題となる。
- ・まだまだ ICT の導入・活用に懐疑的、また、幼児教育・保育施設に ICT は不要という考え方も根強く残っている園も多い。このため、それらの園が研修を受けたい、ICT は必要だという考えに変わる内容の検討が必要となる。
- ・業界・参加者のリテラシーやスキルレベルの把握、また、取り組みを行う組織の課題や目標等を事前に実態調査が必要と考える。
- ・より効果的に ICT 化を広めるため、取り組みの実践を報告する場を設け、実践している周辺や業界全体への波及効果を高めるための取り組みが必要と考える。
- ・ICT 支援員は全国的にも人数が限られており、公立学校への配置や支援が中心となっていることから、ICT 支援員もしくは ICT 支援員と同等のスキル、そして、幼児教育・保育業界の実態を理解している人材の確保が急務となっている。また、各園とも抱えている課題は比較的共通な事項もあるが、個別の事情を抱えていることも多く、併せて、積み重ねてきた文化や目的・目標が異なる場合、個々のケースに合わせて研修やコンサルティングの内容をカスタマイズすることが求められるため、様々なシーンや課題に対応する広く、豊富な知見、幼児教育・保育施設の実情をしっかりと把握していることで適切なアドバイス・指導・支援を効果的に行うことが可能となる。

【今後の課題】

- ・園ごと、また、同じ園内の教職員によっても ICT リテラシーに大きな差があり、導入・活用に向けた大きな壁となっている。また、導入・活用する際に課題解決のための適切なソリューション選定ができない、情報をどのように収集・比較すれば良いのかわからないという園も多い。今後は情報提供を積極的に行うとともに ICT リテラシーの底上げを行えるような研修を各地できめ細かく行い、さらには多くの園ではソリューションを管理・指導できるような人材がいないため、園でこれを担う人材育成を早急に図っていきたい。
- ・より一層の周知・啓発を図り、積極的に業務改善に取り組むモデル園を増やしていきながら、ICT に懐疑的、不要と考える幼児教育・保育施設にもその必要性和効果を示しながら、継続的に導入前・導入後の定性的評価と定量的評価を実施し、プロセスや効果について広く情報提供を行い、ICT の活用に向けた取り組みを図る。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

(1) 目的

幼稚園教諭養成校に訪問して実施する「幼稚園・こども園キャラバン」にて、幼稚園教諭の仕事、幼稚園・こども園の PR を図るとともに就職に対する疑問や不安を解消し、幼稚園教諭への就職を推進するとともに就職後のミスマッチ解消につなげ、これにより、人材確保・離職防止・定着促進を推進し、円滑な園運営を行い、ひいては幼児教育・保育の質の向上につなげることを目的としたものである。

また、「幼稚園交流事業」においては、教科横断的な体験学習活動を通して幼児教育・保育について考え、その意義の理解を図る。また、幼児への関心を深めるとともに経験を広げ、社会性や豊かな心を育てる。実際の保育活動から幼稚園教諭の仕事内容を理解し、自らの進路選択の幅を広げることを目的としたものである。

さらには高校生を中心として、ポスター・Web サイトによる職業理解と幼稚園の PR を図り、養成校への進学志望者を増加させるとともに、高等学校の進路指導教員及び担任、保護者に過去より大きく改善されている幼稚園の労働環境・雇用条件等について、現状を正しく伝え、養成校への進学、幼稚園教諭を目指す生徒への進路指導等に寄与することを目的としたものである。

(2) 取組内容について

① 幼稚園・こども園キャラバン

実施内容：幼稚園・こども園及び幼児教育・保育の魅力を PR するとともに、就職に向けた疑問や不安解消に向けて現場の教職員等とディスカッションを実施。令和 3 年度については新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンライン配信も可能としていたが、いずれの学校もオンラインではなく直接対面方式での実施を希望し、幼稚園教諭養成課程を有する養成校 32 校中、申し込みのあった 9 校（276 名参加）にて実施した。

ア. 札幌医療秘書福祉専門学校（1 年生）

日時：令和 3 年 7 月 20 日（火）14：00～15：30

会場：札幌医療秘書福祉専門学校

実績：医療保育科に在籍する 1 年生 32 名

イ. 旭川福祉専門学校（2 年生）

日時：令和 3 年 7 月 29 日（木）14：55～16：25

会場：旭川福祉専門学校

実績：こども学科幼児教育専攻に在籍する 2 年生 20 名

ウ. くしろせんもん学校（2 年生）

日時：令和 3 年 11 月 2 日（火）10：40～12：10

会場：くしろせんもん学校

実績：こども環境科に在籍する 2 年生 24 名

エ. オホーツク社会福祉専門学校（1 年生）

日時：令和 3 年 11 月 4 日（木）12：30～14：00

会場：オホーツク社会福祉専門学校

実績：こども未来学科に在籍する 1 年生 29 名

オ. 光塩学園女子短期大学（1年生）

日時：令和3年11月12日（金）13：20～14：50

会場：光塩学園女子短期大学

実績：保育科に在籍する1年生約名60名（実績65名）

カ. 北海道福祉教育専門学校（2年生）

日時：令和3年11月15日（月）13：10～14：40

会場：北海道福祉教育専門学校

実績：保育科に在籍する2年生30名

キ. 北海道福祉教育専門学校（1年生）

日時：令和3年11月15日（月）14：50～16：20

会場：北海道福祉教育専門学校

実績：保育科に在籍する1年生26名

ク. 札幌国際大学（2年生）

日時：令和3年12月6日（月）14：40～16：10

会場：札幌国際大学

実績：人文学部心理学科子ども心理専攻に在籍する2年生39名

ケ. くしろせんもん学校（1年生）

日時：令和3年12月15日（水）9：00～10：30

会場：くしろせんもん学校

実績：こども環境科に在籍する1年生11名

【効果及び検証と普及・啓発について】

- ・ 昨年度同様の9校での実施となった。参加人数は276名（昨年度201名）と約1.4倍の結果となった。年々、養成校における授業スケジュールが過密となっていることから、本事業に対応できる時間が少なくなっている。このため、3年前より就職年次の学生を対象としていたものを、他年次の学生も対象とするなどの対策を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅授業、教室の収容人数、さらには休校、学級閉鎖が相次ぐなど、昨年度より開催校数が減少した結果となった。
- ・ 昨年度からオンラインでの開催にも対応していたが、当協会で行っている配信はクラスもしくは学年単位のため、在宅授業、休校、学級閉鎖とそもそも学校に来ることができない状況が多発し、オンラインでの開催はゼロとなった。
- ・ しかし、実施した養成校及び学生からは、内容について大変好評な結果となり、約90%弱が良いとの評価であった。例年同様、実際の園での保育の映像、また、OBを中心とした会場とのディスカッションなど実際の現場や園を深く知ることができる内容が高く評価され、不安の解消や進路選択の決定に大きな効果があった。
- ・ 昨年度からオンライン形式を取り入れており、養成校において実施予定を検討する幅が広がった。しかし、当協会の配信形式がクラスもしくは学年単位で学校に配信する形式であったため、新型コロナウイルス感染症の影響で学校に来られない状況への対応ができなかった。今後は学校単位ではなく個別配信形式とし、また、対面形式と同様に双方向で質疑やディスカッションが行えるような運営方法の改善を図っていきたい。

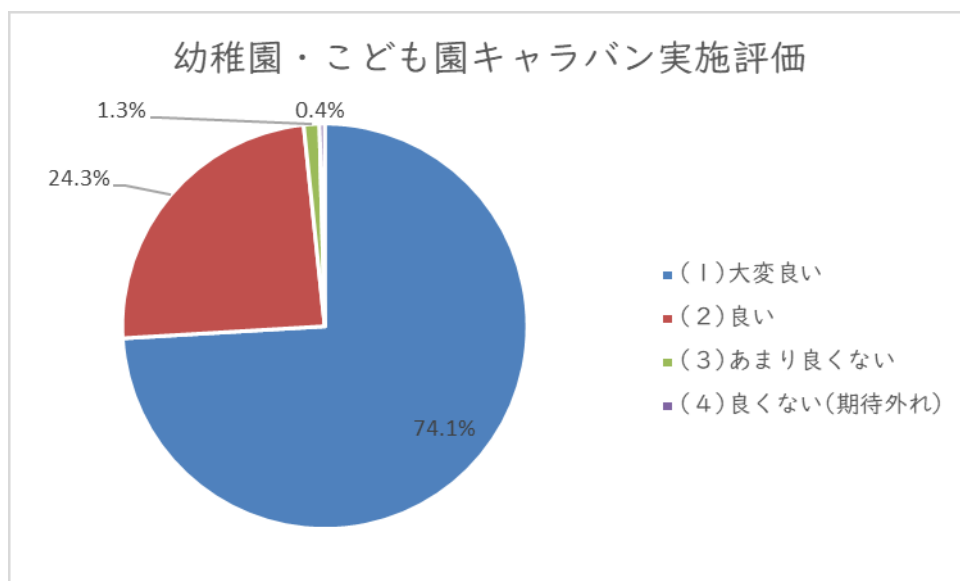
【取り組みを行う場合の留意点】

- ・ 養成校の授業スケジュールが過密になっているが、土日や夜間はアルバイトなどで学生側の都合が悪いことが多いことから、実施時期及び時間等を柔軟に調整し、可能な限り養成校側の日程に合わせて実施することが必要だと考えられる。また、就職年次の学生を対象にする際は実習前など、それ以外の年次を対象にする際には秋以降などの区分も必要と思われる。
- ・ 内容としては映像や参加型のディスカッションなどが特に好評であるため、多くの映像とディスカッションの時間を設けることが不安の解消と進路選択への効果を高めることとなる。また、同じ参加者が各年次で参加した際、内容が重複しないよう提供する内容やメニューを多様化しておくことが必要である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響はもとより、養成校が柔軟に予定を検討できるよう、オンライン形式の実施を併用して行うとともに、個別配信や双方向配信など、より対面形式に近い形の内容・運営方法をしっかりと検討する必要がある。

【今後の課題】

- ・ 訪問先養成校において、年々、授業や行事等のスケジュールが過密になっており、日程調整が難しくなっている。例年実施している養成校では年間スケジュールに組み込まれるようになってきたが、今後はより柔軟に養成校の要請日程に対応しながら、実施していない養成校への働きかけをする体制づくりが必要である。また、この事業に参加する学生は幼稚園教諭を志望している学生が多く、幼稚園教諭以外を志望する学生をどのように取り込んでいくかが課題である。
さらには継続的な追跡調査がいまだ不十分であることから、今後、改めて定量的評価につながる調査が必要である。
- ・ 対象者を就職年次の学生からその他の年次まで拡げたため、1年次と2年次など複数回参加している場合、内容が重複することがあるため、内容・メニューの多様化を行う必要があり、アンケート調査等からその改善を図る。
- ・ 映像については、録画した映像を見せることに併せて、当日、会場と園をライブ配信でつなぎ、実際の現場の雰囲気を感じながら遠隔地の教職員とのディスカッションを行うなど工夫を行う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響はもとより、養成校が柔軟に予定を検討できるよう、オンライン形式の実施を併用して行うとともに、個別配信や双方向配信など、より対面形式に近い形の内容・運営方法をしっかりと検討する必要がある。
- ・ 本年度及び過去のアンケート調査結果から、より効果的なアンケート調査の内容を検討する。併せて養成校との連携により、追跡調査を実施する。

(本事業の評価) ※有効回答数 239 件



○ 採用試験を受ける園を選ぶ基準 (優先順位)

- 1位 園の雰囲気、実習や見学の有無
- 2位 給与や待遇
- 3位 場所
- 4位 保育内容
- 5位 大学や専門学校の先生の意見
- 6位 ホームページ、ネットでの評判

[意見]

- ・ 持ち帰り仕事量
- ・ ピアノ
- ・ 仕事外の交流の有無
- ・ ICT化が進んでいるか
- ・ 園の規模 (園児数・職員数・広さ・設備等)

○ 園で働くにあたって心配に思うこと (優先順位)

- 1位 園の雰囲気や職場の人間関係
- 2位 保育内容や自分の力量
- 3位 保護者との関わり
- 4位 園児との関わりや学級運営
- 5位 給与や待遇
- 6位 通勤や一人暮らし

[意見]

- ・ 残業
- ・ 奨学金の返済
- ・ 家庭と仕事の両立
- ・ メンタル面
- ・ 感染症対策

「採用試験を受ける園を選ぶ基準」は「園の雰囲気、実習・見学の有無」が1位となった。昨年4位であった「給与や待遇」が2位となり、3位が「場所」となり、4位に「保育内容」となった。

「園の雰囲気、実習・見学の有無」が1位は例年変わらないが、「給与・待遇」が上位に来ているのは、他業種も人材確保を目的として給与・待遇をアップさせている傾向があることが影響しているのか、本年度だけの傾向なのかを見極め、今後、「給与・待遇」を重視する傾向が続くのであれば、園においてはさらなる改善を図る必要が出てくることが想定される。

「園で働くにあたって心配に思うこと」でも前年同様に「園の雰囲気、職場の人間関係」が1位となり、この結果からも同様の傾向が見られる。2位には「保育内容・自分の力量」が挙げられており、3位には「保護者との関わり」となっている。働きやすさや仕事の内容を重視している結果が見られ、「給与・待遇」が下位になっているが、一方で試験を受ける基準との差異についても、もっと詳細に調査分析していく必要がある。

「保育内容、自分の力量」を心配している回答が前年度に引き続き上位にあがっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により教育実習が円滑に受けられない、また、就職するまでに園での研修が少なくなっているということも、さらに新卒者が不安に思う理由に拍車をかけていることが想定される。

これについては各園でも課題とする育成につながるものであり、新卒で入園時からすぐに担任を任せられることがあるという不安、園が将来のスキルアップやキャリアアップの研修、キャリアビジョンをしっかりと示すことができるか、そして、いかに新採用教員をフォロー・育成できるかが、幼稚園教諭・保育教諭の希望者増加と早期離職防止の鍵となると思われる結果となっている。

〔 参考 〕 参加者からの意見 マイニング分析

■ 参加者からの意見にもとづく「ワードクラウド」

- ・ スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

〔試験を受ける園を選ぶ基準〕



- 先生方が笑顔で楽しそうに話しているのを見て、子ども達と関わる仕事はやはり素敵だと思いました。
- 休みについて、思っていたより長期でとれることがわかった。働き方改革で、働きやすい職場が増えていることが分かった。
- 幼稚園の印象が変わった。就職先として、幼稚園も選択肢に入りました。
- 最初は、幼稚園と聞くと教育熱心な先生が多く、働く環境も大変なのかなと思いましたが、協力し合い、子ども1人ひとりが楽しく過ごせる場所を作っていることを知れて、とても良いイメージが持てました。お給料のことも詳しくではありませんでしたが、安心していいことを知れて良かったです。
- 幼稚園は学校ということ意識した保育ばかり行っているというイメージがありましたが、遊びを大切にしている保育を行っていることがよく理解でき、幼稚園のイメージが変わりました。
- 現場の先生たちも迷ったり、困っている事がある中、いろんな事をやりながら日々を過ごしていることがわかりました。
- とても大変なイメージがたくさんあったけど、先生は大変なこともあるけど、とても楽しそうで、幼稚園も考えてみようかなと思った。
- 進路希望ではなかったので関心がなかったのですが、今日お話を聞いて、良い部分ややりがいを知ることができたので、子どもの先生という仕事に関心を持つことができて良かったです。
- 大変なことだらけだと思いましたが、大変なことの中にも嬉しいこと、やりがいのあること等があり、楽しいと感じることがわかりました。
- 1年目から担任を持つことにとても不安を感じていましたが、とても楽しそうに1年目から働いている様子をおしえていただいて、少し不安がなくなりました。
- もし私が幼稚園で担任を持ったらできないかとも思っていたのですが、子ども達の成長を間近で見ることができると担任の先生というお話を聞いて、担任を持つということは自分にとってプラスなんだと思いました。
- 1年目から担任を持つと聞いて、それなら幼稚園は無理かもと思っていたけど、それ以上に沢山の魅力があることを知り、幼稚園もいいかもしれないと感じた。まだ100%幼稚園が良いと思っただけではないけれど、自分の特技などを活かせるのはどちらかをよく考え、進路を決めたい。
- 保護者の方の対応はマイナスに感じてしまいがちだったけれど、自分が歩み寄ろうとすることで保護者の方も答えてくれるのだと感じた。給与の面でも大きな心配はいらなかったと思った。
- 大変そうというイメージが漠然とあったけれど、シフト制であったり、基本的にしっかりと自分の時間（休養の時間）もとることができるのだと知りました。
- 給与の面の安定性や、休日・残業の有無がイメージと違っていた。また、ボーナスもあるみたいなので、安心しました。
- 幼稚園の先生は給料が安いと思っていたけど、1人暮らしができるくらいもらえると知れて、安心できた。
- 基本的に定時退勤できることや、保育の仕事を一生涯の仕事としてやっていけるよう努力してくださっていることに安心感を覚えました。
- ピアノができなくて気が重かったので、少し肩の力が抜けて良かったです。（だからと言って練習しない訳ではないです！）
- 現時点での進路先はまだわからないのですが、今回の話を聞いて、子どもと関わる仕事に就きたいと思いました。一年目でクラスを持つことに不安があったのですが、サポートの先生がいるということを知り、不安が少なくなりました。
- 楽しいという理由で働き続けている先生は素晴らしいと思った。私もそれくらいのやりがいを保育職に見出せる人になりたい。

- 大変な事だけではなく、楽しいことややりがい等たくさんあると改めて感じた。園によってそれぞれ違うことがわかったので、就活をする際には色々調べて自分が楽しんで働ける場所につけるようにしたいと思った。
- 改めて保育の道を目指していこうと思えました。不安が消えた部分も多かったです。
- 子どもが好きという気持ちだけでは続けられるものではないと思っていましたが、現場の方たちの話を聞いて、やっぱり子どもが好きという気持ちからやりがいや楽しさを感じるのだと思いました。
- 辛いことがあっても同期の支えや先のことを考えるなどして、皆さん一人ひとりが乗り越えてきたという話を聞いて、自分が思っていたよりも保育の仕事が優しいイメージに変わりました。
- 現場の先生もポジティブだけではない人間的な考えを持っているのだと知れて、少し安心しました。
- 一人で悩むのではなく、同期や先輩に言える環境は、信頼関係を築けるし、ストレスなく働けると感じた。

Q. キャラバンを受けての感想や、もっと詳しく知りたかったことなどがあれば教えてください。

- 良い面も悪い面もさらけ出してくれるという方がいるというのは、とても有難かったです。後悔しないためにも、全てを話してくださる方が次回も来て下されば良いなと思っています。
- 先生方の経験やマイナスなイメージばかりでないことを知ることができて良かったと思います。特に、『男性には男性の、女性には女性にしかできないことがある』というメッセージが印象に残りました。
- 大人は美化することが多いのですが、正直な詳しい話を聞くことができたので、とても参考になりました。
- もっと固い雰囲気 of 授業かと思っていたので、こういった形式で楽しく色々おしえていただけて、とても勉強になりました。他の園の先生の様子なども見てみたかった。
- 固定されていたイメージが良い意味で崩れました。
- 今日実際に先生のお話を聞くまでは、可愛い1・2歳児がいるから保育園で働こうかなと単純な考えをしていた自分がいました。しかし、実体験を聞き、自分に合っているのは幼稚園なのではないかと思いました。とても心が動いたキャラバンでした。ありがとうございました。
- 教科書では学ぶことができない保育現場の実態を知ることができて良かった。
- 私はピアノがとても苦手なため、幼稚園は向いていないと思い込んでいましたが、自分の得意なことを一つでも多く見つければ良いと、今日の授業を通して考えが変わりました。
- まだまだ知らない部分がたくさんあると思った。保育所志望でしたが、幼稚園・認定こども園も就職先の一つとして考えようと思いました。
- 大学に入ってから保育への仕事がマイナスのイメージが大きくなったのですが、自分の仕事のやり方を変えたら気持ちが楽になったり、楽しさを感じることを知りました。給料面が一番疑問だったのですが、私が想像していたよりも安心できること、休みはお盆と正月に10日間もとれること、残業や持ち帰りの業務を減らすためにイベントの改善をしていると知り、とても興味深い時間となりました。
- 先生方の話を実際に聞いたのは本当に大きいことです。欲を言うと、もっと多くの方々の話を聞きたかったです。本日はありがとうございました。
- 現場の声を実際に聞くことができ、とても勉強になりました。就職への不安を少しでも軽くすることができたので、もう少し頑張ってみようと思います。就職してからの1~2年をどう過ごしていけるのかが不安なので、もう少し詳しくおしえていただきたかったです。

- マイナスなイメージが多かったが、話を聞いてそのイメージが減り、働きやすい環境もあるのだとわかりました。
- 不安に思っていたことが少し解消され、就職に向けて前向きに動き出そうという意欲が湧きました。
- 大変な仕事であることは覚悟していますが、更に腹を決めて頑張らないといけないと思いました。
- 自分の性格も考え、あまり『良い保育士像』を求めすぎないということも大事だなあと感じました。
- 自分の想像していた内容と違いプラスな面が増えた。自分も苦手なことがあり、“苦手だけれど頑張らないと”と思っていたが、周りのフォローがあることを知れて安心した。自分の得意なことを伸ばそうと思った。
- 保育者の仕事は厳しいものばかりだと思っていたので、楽しい場面があると聞いて安心しました。
- 実習などでは聞けない踏み込んだ話を聞いて、貴重な体験になりました。また、今後の活動の意欲に繋がりました。
- 学生の内から自分の強みになることを積み重ねていこうと思いました。早く子どもと関わる仕事がしたいです。
- あまり聞けないことをおしえてくださり、とてもためになりました。今日のことを参考にして、今後、就職についてしっかり考えていきたいと思います。
- 幼稚園と認定こども園について、分かっていると思っていたが、よく考えてみると知らないことが多くて、今回、大変貴重な話を聞くことができて良かったです。就職に向けての不安が少し減りました。
- 今回この授業を受けて、幼稚園の先生に対するイメージが大きく変わりました。今まで不安に思っていた仕事時間や給料なども自分が思っていたよりも良くなっていて、とても参考になりました。また、実際に働いている先生方からお話を聞くことで、とても分かりやすかったり、イメージ等が湧きやすかったです。
- 想像していたものと仕事内容が違っていた部分があったので、もっと理解することが大切なんだと気づきました。今後の進路を考えていく上で、本日のキャラバンを参考にしていきたいです。
- 幼稚園の良い所や保護者への対応などを詳しく聞くことができて、凄く勉強になりました。給料の事も聞いて安心しました。そして、自分の好きなことができる職場を選ぶことで長続きすることが分かったので、私も自分の力を発揮できる場所を選んで頑張りたいと思いました。
- 保育園と幼稚園、どちらを選択するのが自分に合っているのか、まだ全然決まってはいませんが、保育者として子どもたちとどう向き合うのか、関わっていくのか、また、保護者との関わり方など自分の不安だった部分を詳しく知ることができて良かったです。現役の先生や園長先生のお話から学べたことを今後の実習に活かせるようになりたいです。
- 幼稚園について知る機会がなかったため、詳しいことまで聞くことができて良かったです。私は将来、幼稚園が施設で迷っているため、様々な話をたくさん聞いて決めようと思いました。
- 本学を卒業された先生方のお話を聞いて、子どもと関わることの難しさや関わる上でのやりがい等を改めて知ることができたと思いました。そして、とにかく苦手意識を持つのではなく、それを克服しよう努力することはもちろん、苦手なことはばかりにとられるのではなく、自分の好きなことや得意なことを活かしたり伸ばしたりすることが大切なんだと感じました。
- 実際の勤務体制ややりがい等を園長先生や現職の先生から聞くことができ、とても勉強になりました。

② 幼稚園交流事業（高校生を対象とした公私連携による実践保育体験授業）

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、当該内容について計画していた幼稚園交流事業は中止となった。

【効果及び検証と普及・啓発について】

- ・ 幼稚園交流授業はモデル校や北海道教育委員会でも重要な取り組みとして認知されており、モデル校の教員・生徒、地域の行政・幼稚園・小学校・中学校からも評価が高く、継続的な実施が要望されている。また、外部講師による授業、アクティブラーニング、職業理解、社会性の育成など単に養成校への進学を目的とした幼稚園の人材確保に留まらない、広い効果がでている。
- ・ しかし、本事業においても新型コロナウイルス感染症の影響により本年度は中止となり、予定されていた事業が行うことができなかった。

【取り組みを行う場合の留意点】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響はもとより遠隔地での授業など、オンラインでも実施可能なプログラムを構築し、事業を予定どおり実施できるよう検討する必要がある。
- ・ 対面形式で行うことが一番良い事業であるが、その際、実施にあたっては、生徒の就職意識や取り組みへの姿勢など、高等学校との綿密な連携と事前調整が重要である。また、授業の内容、アドバイス・評価を行う教員の確保、保育実践を受け入れ可能な園の確保も必要である。
- ・ また、養成校の学生と異なり、進学・就職先が未確定なことが多く、さらには幼児教育・保育を進路としてまったく考えていない学生もいることから、アプローチの仕方が重要である。

【今後の課題】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等から、オンラインでも実施可能なプログラムを構築し、事業を予定どおり実施できるよう検討していきたい。
- ・ 幼稚園交流授業はモデル園や北海道教育委員会でも重要な取り組みとして認知されているが、他地域や他校への波及が不十分となっており、まだ広がりが少ない状況となっている。道や市町村の教育委員会などにより一層情報共有を図り、複数校での実施が可能なよう取り組みを進めていく。
- ・ 道立高校での実施においては北海道教育委員会と連携協力をしながら実施できるよう、北海道教育委員会の担当部局とも調整を行っていく。さらには私立高校などでの実施も検討したい。
- ・ アンケート調査及び実施校の担当者と検証を行いながら、進路が未確定な高校生に対する具体的なアプローチの検討を行う。

③ リーフレット・ポスター・Web サイトによる幼稚園の魅力発信

【効果及び検証と普及・啓発について】

- ・ 昨年度、養成校への進学者を増加させ、幼稚園教諭免許の絶対数の増加へ繋げるため、高等学校の生徒、保護者に向けポスターを作成・配布し、そこから Web サイトへ誘導し、幼稚園・幼稚園教諭という職業理解と PR を行った。デザインについては現在の中学生・高校生らが幼児期から親しんでいる絵本の主人公を活用することにより、より一層興味・関心を引くものとし、一定の効果が出た。しかし、ポスターから誘導する Web サイトについて、掲載

内容の追加を行うにあたり幼児教育・保育施設への取材が必須であったが、新型コロナウイルス感染症の多大な影響により、休園・学級閉鎖、外部の者の立ち入り制限などにより、予定の更新ができなかった。今後はこのような状況であってもオンラインで取材が可能なよう、対策・改善を図っていききたい。

【取り組みを行う場合の留意点】

- ・ まず、高校生が興味関心を持ち、詳細な内容が掲載されている Web サイトへ誘導するための入り口をしっかりと検討することが必要である。Web サイトの内容が良くても、そこへ誘導する最初の起点に興味関心を持ってもらえないと効果が得られない。
- ・ 高校生に発信する場合、すでに幼稚園教諭として職業選択をしている養成校の学生と異なり、養成校に進学するか、また、職業選択をどうすべきかを検討している段階で効果的な訴求・PR をすることが求められる。このため、より魅力的で正しい情報を発信することが必要であるが、その手法として高校生の流行や情報源を精査しなければ効果的な成果が得られない。

【今後の課題】

- ・ ポスター・Web サイトについては継続的に多方面から発信をし、SNS も有効に活用しながら対象である中学生・高校生及びその保護者に向けて PR と職業理解の促進を図る。今後、幼児期・小学生が「オトナになったらなりたいもの」の常に上位にある幼稚園教諭を進学・就職時まで維持し、実際に結びつくよう幼・小・中・高の時期に継続的な接点を作ることを図る。
- ・ 今後、ポスター・Web サイトに対する高等学校の進路指導教員や担任、生徒へのアンケートを行うとともに、このサイトへのアクセス解析を行い、その効果を定量的に分析する。
- ・ 併せて、懇談会の映像や幼稚園・幼稚園教諭に対する質問や意見を高等学校の進路指導教員及び担任を対象に調査を行い、さらに伝えるべき内容を精査し、発信する内容の効果を高めていく。

ア. ポスター・リーフレットの配布

ポスターは高等学校の生徒及び養成校の学生をメインターゲットとし、現在の高校生の皆様が幼児期にはじまった「おばけのまール」の絵を描かれている札幌市在住のイラストレーター 中井 令 (なかい れい) 氏の描き下ろしにより、より職業を身近に感じられるよう、自分が幼稚園の先生になる将来をイメージするポスターとした。ポスター左下部のQRコードをスマートフォンで読み込むことにより、職業紹介Webサイトを閲覧できるようにしている。令和2年度に北海道内の高等学校(公立224校、私立54校)、養成校32校に配布し、令和3年度はポスターから誘導している専用サイトの整備を行った。



また、リーフレットはポスターと同じデザインを使用し、北海道の幼稚園の現状や研修制度、教員免許状更新講習、退職金制度、私学共済など、養成校に訪問して行う幼稚園キャラバンで質問の多かった事項を中心に、安心して働ける環境を解説した内容としている。リーフレットは幼稚園キャラバンの際に養成校の学生に配布した。



イ. Web サイト

昨年度、高校生を中心に幼稚園また幼稚園教諭という職業の魅力と重要性、現在の労働環境・雇用条件等に関して正しく理解いただくとともに、ポスター・リーフレットと同じ「おぼけのマル」の絵を描かれている札幌市在住のイラストレーター 中井 令（なかいれい）氏によるデザインに統一し、併せて、中井氏により現場の園長・教職員のインタビュー等の取材を行い、実際の職場の現状をリアルに伝える内容とした。

内容は「安心して働ける労働環境と充実した制度」の紹介、「突撃インタビュー」として幼稚園紹介、「ファッションチェック」として先生の園におけるファッションを紹介して、サイトを閲覧する興味や親近感を持てるようにした。さらに、養成校一覧やブログを掲載し、養成校の情報収集、様々な活動の紹介を行い、養成校への進学、幼稚園への就職意識を高めることを目的としている。

【職業紹介サイト】 <https://codomo.work/>



ITC化で保育の時間をたっぷり そして毎日、定時に帰宅。

Q: この園での働き方や保育に対する思いをお聞かせください。

井内聖孝園長

当園は完全ペーパーレスにすることで先生の事務仕事が激減したため、毎日定時に帰れるんです。早い段階からICT化に取り組んでいるのですが、そのおかげで総務部地庫で増出した時に被害を最小限に食い止めることができました。当時はやき子ども園の園長をやっていたその日はお泊まり会だったので、夜中に被災して停電になり電話などが使えなかった時も、先生は各自のiPhoneから保護者との連絡を取ることができました。ノートパソコンは全部バッテリーで動き、データクラウドにアップロードしていたので、ネットさえ繋がれば全て読み込むことができました。職員室もくちゃくちゃになったのですが、紙がなかったので倒れてくる書類もなく、ICT化のおかげで危機管理への対応もスムーズでした。

情報共有もできるのでフリーアドレスにし先生方の固定机が必要なくなった分、職員室の無駄スペースもなくなりました。先生が耳につけるワイヤレスイヤホンを使って、iPhoneを無線代わりにして業務連絡をとったりと、中々外で情報共有が図れます。当園の考え方は「管理しない」。管理者を置かずして、全ての情報を管理者に届けられてしまい、その人じゃないとできない仕事になってしまいます。今は、共同で仕事をすることで、全ての情報をミエル化することで、結果までに行き着く過程段階も見えるので、仕事のやり方を学んだりも出来ます。

ICT化の一歩の理由は、先生方に保育をする時間を確保してもらうためです。先生方は保育をたくわて就職したのに、それ以外の事務仕事などに追われていたら意味がない。もちろん保育は徹底してアナログです。紙本は特に大切にしています。

ICT化は労働環境はいろいろな面から解消されて、先生たちは保育に集中できそうですね。



副業だって応援します！

制度を整えることによって、先生たちは生き方の選択肢が広がる。先生方は雇われるのではなく、自分で園を選び、収入を自分で決めることができるのです。どんな保育士や幼稚園教師として生きていきたいかを自分で決めることができる人によって考え方が様々ありますが、互い違いを理解してもらっています。教育・保育・地域活動に関わる内容なら副業も認めています。中には起業したくちで働いている先生もいます。

生き方の選択肢がこんなに自由なんで、先生方のやる気につながりますね。保育士や幼稚園教師という仕事にますます魅力的に感じられました。

男性保育士もだいじょうぶ。

Q: まだまだ女性の方が多い職業ですが、男性の保育士を目指す人に不安を解消するメッセージをお願いします。

浅野さん

女性と同じ土俵に立とうとするのではなく、男性だからこそ出来ることも沢山あります。その前に、自分の強みをきちんと持って行けば、それは技能的なことである必要はない些細なことでも構わない、自分を見失わないことが大切です。

全ての職業にも通じる心強いメッセージですね。

Q: 他に学生さんたちにお伝えしたことはありますか？

藤澤さん

学生時代にボランティアのサークルに所属していたのですが、その時に子どもたちのイベントを企画しました。実習以外でも子どもと関わる機会が多く、アツ先生のような体験をしたのは良かったなと思っています。

子どもとどんなふうに関わるのか前もってイメージができたんですね。

浅野さん

自身が子どもの時にやった遊びを振り返ってみるのもいいと思います。自分の引き出しで子どもと一緒に遊ぶことが出来るから、いろいろな経験をして欲しいなと思います。



ファッション
チェック!



恵庭幼稚園

藤澤 裕香さん (左) 浅野 大樹さん (右)

服装は自由です。運動の時のジャージ姿だけはNG
ふわりとした白いシャツが清潔感と堂々さを感じさせる
スタイルの先生たちが多い印象ですが、元アパレルでアルバイトを
していた個性もバッチリ!



参加学校一覧

札幌国際大学 人文学部 心理学科 子ども心理専攻

T004-8603 札幌市清田区清田4条1丁目4-1

011-861-8844

<https://www.siu.ac.jp/academics/jinbun-kodomo/>

札幌国際大学 短期大学部 幼児教育保育学科

T004-8603 札幌市清田区清田4条1丁目4-1

011-861-8844

<https://www.siu.ac.jp/academics/tandai-childcare/>

札幌大谷大学 短期大学部 保育科

T065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1-1

011-742-1651

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/nursery/>

光塩学園女子短期大学 保育科

T008-0010 札幌市南区真駒内上野2丁目1-1

011-561-0101

<http://tandai.koen.ac.jp/childcare/>

札幌大学 女子短期大学部 こども学科

T062-8520 札幌市東区真駒内3条2丁目3-1

011-852-1181

<https://tandai.sapporo-u.ac.jp/course/child/>

明日佳幼児教育専門学校 幼児保育学科・こども保育学科

T063-0003 札幌市南区山の手3条2丁目8-5

011-843-6686

<https://anodora.ac.jp/>

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

T060-0063 札幌市中央区南3条西1丁目15

011-272-5085

<https://yoshida-fukushi.jp/hoku/>

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、なかなか計画通りの事業が行えない中、リーフレット・ポスター・Web サイトと少しでも現在の環境の中で幼稚園・幼稚園教諭の魅力を発信出来得る限りのことに努めた。

しかし、本年度は園への取材も感染対策から実施することが難しい時期が続き、新たな情報発信よりも、周知に力を入れることが中心となった。本事業は継続してその効果を検証していきたい。

ポスターは高等学校及び養成校の校内掲示板への掲示を依頼しており、そこから Web サイトへ誘導する形となっているが、Web サイトの訪問数は 3 月末までに新規ユーザーで約 3,100 アクセスとなっており、スマートフォンでの閲覧が 9 割近くとなっている。

ポスターが掲示された時期、また、就職に関する授業や指導が行われた時期に一時的にアクセスがあるが、年間を通して継続的にアクセスが向上されるよう、今後も PR 及び記事の更新を行い、継続してその効果を検証していきたい。また、公共施設、高校生・大学生が立ち寄る施設にも積極的な働きかけを行っていく。

まとめ

文部科学省委託事業として過去 4 年度にわたり受託・実施してきた令和 3 年度の「幼稚園の人材確保支援事業」について報告書として記した。

本年度も昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、北海道内の各園においても、引き続き、感染症対策や日々の教育・保育、また、子どもたちの育ちなど様々な対応が求められている。

今後もまだ新型コロナウイルス感染症の影響による社会のあり方、働き方、生活、など社会全体をはじめ、園や教職員にとっても大きな変革が求められる時代となっている。

引き続きコロナ禍、また、コロナ禍以降においても、新たな社会（ニューノーマル）という中で、教職員の負担増、また、人材確保や幼稚園及び幼稚園の先生という魅力を PR し、質の高い幼児教育・保育を維持し、子どもたちにより良い環境を提供できるよう、一層の働き方改革、ICT の利活用を当協会としても急務として取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会全体でより一層働き方改革への取り組み、そして、新しい変化が進む中、人生の基礎を培う幼児教育・保育への期待と責任はますます大きくなっている。

このような社会環境、また、未来を生きる子どもたちの土台を培う施設として、質の高い幼児教育・保育を提供し、一層の努力を行っていくためにも、この調査結果、また、今後の継続した活動が少しでも「幼稚園の人材確保」につながるきっかけと参考になるよう、引き続き本調査研究テーマをについて、取り組んでいきたい。

文部科学省委託事業「幼稚園の人材確保支援事業」

発行：公益社団法人北海道私立幼稚園協会

発行年月日：令和4年3月30日

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西6丁目3-1

札幌ルーテルセンタービル4階

TEL：011-222-2548・FAX：011-232-4521

E-mail：info@hokushiyou.or.jp

URL：<http://www.hokushiyou.or.jp>